



幹事長就任のご挨拶

BN 835 猪狩 稔



この度、幹事会に於いて横尾前幹事長からなため会幹事長を引き継ぎました昭和53年度卒業の猪狩と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

平成28年度なため会の事業計画の重点目標は①会員サービスの向上②会費納入の強化③運営委員の増員であります。昨年度は創部80周年の記念行事で日本各地において立案された「全国一斉ワンデルング」や「現役学生との合同ワンデルング」、そして駿河台の紫紺館での「記念式典」といった一連の行事には大勢のOB・OGのみなさんにご参加いただきました。御礼申し上げます。そして全ての会員の皆様に80周年記念Tシャツと薫風特集

題字 廉隅 進

第 53 号

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会会報

号を配布させて頂くことができました。

今回、会員の皆様に向けてアンケートへのご回答、ご返信をお願いしております。皆様の貴重なご意見を会の運営の舵取りにさせていただき、より多くの方にご参加いただけるようにと考える次第であります。会員サービスを向上して、喜んで会費をお支払いいただけるような好循環を実現できればと考えます。

現在、8月と12月を除く毎月1回駿河台の学生会館体育記念室において「運営委員会」を開催し、毎回十数名の運営委員が参加して色々な議題について議論をし、周年行事等の企画や準備等、総務部・財務部・広報推進部・企画振興部・山小屋管理部・事業運営部各部が連動して活動しております。しかしながら人員が少し不足しておりまして、一人が何役も掛け持ちしている状況であります。そこで皆様の中で会の運営にご参加していただける方がいらつしやいましたら、是非お力をお借りして、さらなるなため会の充実を図ることができればと考えております。何卒ご協力とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

幹事長退任のご挨拶

BN 728 横尾 廣志



このたび皆様よりご支援頂いてまいりました幹事長を退任いたしましたことになりました、ご協力いただき誠にありがとうございました。在任中はいろいろと不手際によるご不満も多々あったかと察しておりますが、創部80周年を無事終え、多少はお役に立てたかと思っております。これまでの皆様のご支援・ご理解に深謝致します。誠にありがとうございました。

何もやらん感じの長でしたが運営委員の皆様、副幹事長の小田野さん、事務局の猪狩さん・安部さん手助け誠にありがとうございました。

多くの団体で会員減少が続く中、なため会は80周年のアクションを機に会費納入の人数も増えつつあるのはうれしい限りです。

今後とも一般OBの1人として、なため会をサポートして参りたいと存じますので宜しくお願いします。

突然話は変わりますが、災害の時の動きとして最近思いますのは、ひとつにたき火。なため会で酒を飲むと必ず話題になる山での飯炊きの火つけですが、一昔前なら誰でもやつ

てきたこと、いざという時に役立つこういった知識と技術を日常で体験できなくなっています。でも知っているだけで落ち着いて行動出来るのがこういった経験。煙たい手白のストーブの火もほっとするものです。

東日本大震災避難所生活と

ワンゲルに通ずるもの

BN 727 藤本 俊明

東日本大震災の被災に對しまして、なため会をはじめ皆さんのご支援、励ましに厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成23年3月11日に起こった東日本大震災は、大槌町の人口1万5千人のうち1285人の犠牲者を出しました。特に、町役場前に災害対策本部を設けようとしていた町長をはじめ、8人の課長など職員40人が命をおとしたことは何度となく報道されました。その1年前に、私は、30数年の役場勤務を終え定年退職しておりました。

3・11当日は自宅に居ました。地震の大きさから「これはとんでもない津波が来るな」と直感的に判断したものの、神社の高台から海の様子をうかがっていました。第1波が海岸近くの民家を飲み込む様子を見て、「ただ事じゃない。」と自宅に戻り、非難を洩る妻と母を近くの小学校に避難させました。海から直線で700メートル、海拔14メートルの

我が家も1階が浸水しました。

傾斜のある住宅街でしたので潮水は一気に引き、被害の惨状がすぐ自分の目で確認できました。ほとんどの家屋は全壊、半壊し、流され、どこかの家が判断できません。電柱もなぎ倒され、車も仰向けになったりした、まさに地獄絵図のようでした。

この日から、私の避難所運営と復興の街づくりへの取り組みが始まったのです。気落ちする間もなく、「今、やらなきゃ禍根を残すばかりだ」と自分に言い聞かせました。避難者の何人かで自主的な災害対策本部を立ち上げました。役場の中枢機能がマヒしているという情報が入ってきたのです。しばらくは行政には頼れないと判断しました。300人を超す避難所は小学校の体育館です。騒然とはしていましたが、「まず、不安と恐怖心を和らげることが大事、そのためには光、明かりが必要。」、3月はまだまだ寒いので「まきを焚き、火の周りに人を集めること。神社からかがり火用のまきを避難所の小学校の校庭に運びました。

「電気はどうにかならないものか」という私の願いに、自動車整備工場の社長は、難を逃れた大型バス8台を校庭に移動し、バッテリーから電気を発電し、小学校の体育館内を照明しました。その照明器具もお祭りに使う提灯用の配線を神社から運んだものです。

体育館内のトイレの他に屋外にも必要になってきました。翌日、校庭隅に男女のトイ

レを掘ったのですが、そのとき40数年前のワンゲルのベースキャンプ地のキジ場づくりの経験が甦ってくるのです。

水は近くの井戸からポリタンクに入れて運びます。20代の若手にお願いました。避難所は食糧炊事、医療救護、燃料暖房、情報、安否確認搜索等の任務で多岐にわたりました。今、振り返ってみると、あの時の避難所運営はワンゲルと共通する部分が多々あったようです。

ワンゲルの合宿には食糧係、装備係、記録係、衛生係等があるように、避難所内にも総務班、施設管理班、保健衛生班、食糧班などを設け、班長を指名し、分担と責任体制を保ちました。

また、いかにして事故から逃れるか、安全を確保するにはどうすればよいか。このことを意識して行動することも似ていることに気が付きます。

ワンゲル4年間で最も厳しかったリーダー養成Wと比較しました。リーダー養成は、計画に基づいてやるので予測できます。我慢すればどうにか最終日を迎えられる。きついといっても、望んでやっていることなので最初から覚悟は決まっています。

それに比べ、災害は突然やってきます。望んでもいけません。避難所はいつ終わるのか、それから先はどうなるのか全く見当が付きません。

また、いろんな人が避難しています。90歳

近い高齢者、歩き始めたばかりの幼子、家族に犠牲者があった人、体調のすぐれない人、協調性に心配な人、そして、精神的にも大きなダメージを受けています。これらの人たちを比較的元気な人に、できれば若い人に避難所運営のスタッフをお願いしました。とりあえず、「空腹を少しでも解消すること」「暖かくする」「落ち着かせる」ことが大事でした。(現実はなかなか大変でしたが……)

一方、ワンゲルにおいては、「パーテリーダー」は部員の体調を常に把握し、安全に配慮しながら……という基本があると思いますが、これを、避難所に置き換えてみると、共通することが多々あります。防災意識や危機管理の面においても参考になることは結構あります。

朝、まだ暗い中での出発の準備、至仏山まで藪をこぎ、頂上についた途端、落雷の音を聞き一気に何百メートルも駆け下り、尾瀬ヶ原を経て夜の9時まで歩き、サイト手前で木道から踏み外し、尾瀬沼に落ちてしまった40数年前の自身の苦い経験が、今になって、大震災により明かりのない桎梏(しごく)の世界となった空、不安とかすかな希望の入り混じった中で白々と明けてゆく朝、たき火を囲み暖を取る数人の男たちの白い息、そこに避難所の一日が始まるのです。

「あゝ このことは……どこかでいつか経験したことに似ているかなあ」となぜか重なり合ってしまうのでした。そのたびに、「あ

の時の経験を、ここで活かさなければ」……「こんなことで負けたまるか。」と自分を奮い立たせました。

先輩から「もうすぐ頂上だ。」と言われ、再度重いキスリングを背負い頂上を黙々と目指したものの何度となく裏切られた光景は、「2年後には復興住宅が建てられますよ」と行政から示されるも、作業員不足で進まない、資材が予定より遅くなっているから「達成が延びます」と何度も変更されるようなものと同じです。役所の復興整備担当者の声は、頂上を目指す時の声と重なるような気がします。復興は、山に例えると何合目かなあ、住宅の再建を例にするならば、あと2、3年はかかるでしょう。そうすると、今は7合目ぐらいですかね。

震災から5年4ヶ月も経とうとする中、現在進んでいる吉里吉里地区の復興まちづくり協議会長や地区自主防災検討会議長としての重責を仰せつかり忙しい日々を送っています。復興は当初より1、2年も遅れている感じですが、それでも他の地区よりは進んでいると思っています。

ウサギのようにには走れません。だからといってカメの速度だと時間がかかりすぎます。せめて牛歩でもいいから一日も早い住宅再建、生活の再興を願っています。時間はかかるでしょう。だからこそ、一歩一歩「前に進む」という気持ちを持ち続け、やがて頂上に立てるといふ希望を失わないことが大切でしょう。

私にとつて、現役ワンゲルでの苦い経験が、40数年後、遭遇した東日本大震災5ヶ月間の避難所運営の支えになったような気がしております。

(藤本君は岩手県釜石市の北、大槌町吉里吉里にある天照御祖神社の宮司の家に生れ。大槌町役場を退職した後、宮司の仕事を引き継いだ。震災後は避難所の世話役としてうごき、現在は大槌町の吉里吉里地域復興まちづくり協議会長等を務めています。またNHKで2015/10/25に「証言記録 東日本大震災 岩手県大槌町吉里吉里」待たずに駆け自主災害対策本部」として彼のことが放送されました。BN 728 横尾)

八ヶ岳全山縦走回想録

2015年8月4日〜8日

BN 1006 安部 好洋

昨夏、八ヶ岳の主脈を北から南へ縦走した日を回想する。四泊五日の旅には、カミさんが同行した。

2015年8月4日(火)

行程…八ヶ岳ロープウェイ頂上駅〜坪庭〜

北横岳〜亀甲池〜双子池

カミさんは50Lのザックに11kg、私は60Lに25kgという出で立ちで、曇天の八ヶ岳ロープウェイ頂上駅を後にする。溶岩石と高山植物が織りなす坪庭は神秘的で通り過ぎて行く

のが勿体ないくらいだ。15分も歩けば心拍数と血圧が安定して来るはずだが、まだまだ身体は楽にならない。走り込み不足だ。行き交う人々から激励をいただきながら歩を進める。霧雨の中、北横岳北峰より苔むす森の中を亀甲池に向かう。標高差300mの下りでは、等高線の詰まった濡れたガレ場に手こずりながらようやく亀甲池に着く。今日はこの先の双子池の雌池湖畔にテントを張る。湧き水でできた雄池の水は澄んでいて美しい。かついで来たビールを3本空けて早めに寝るとする。

サイト地着…16時30分

実働時間…4時間05分

2015年8月5日(水)

起床…3時30分、出発…5時30分

行程…双子池→雨池→雨池峠→縞枯山→茶臼山→麦草峠→白駒池

雄池の水をたつぷり汲んでから雨池を目指して林道を行く。ザックの重さに身体がバツチリ慣れてきた。カミさんも快調だ。カラカワ橋から沢沿いに突き上げたら緩やかに雨池方面へ踏み跡を辿る。主脈の喧騒を離れて静かな森の中を歩くのはこの上なく心地いい。森を抜けるとやがて目の前が開けて雨池に飛び出す。静かな湖面には太陽と青空が反射して、その向こうには明日登る予定の天狗岳が見える。

雨池峠より縞枯山方面に進路を変えて針葉樹林に包まれた山腹を一気に急登する。縞枯山はシラビソ・オオシラビソが帯状に枯れ、

その枯れの帯が縞状に見える事から名づけられたという。細身の体に重装備のカミさんの風情が衆目を集めるのか、登り切った狭い山頂では多くの登山者が歓迎してくれる。赤岳を越えて観音平まで歩くことを告げると驚きと声援が入り交じる。

好天も重なり水の消費量も増えて、ハイドレーションのタンクがそろそろ空っぽだ。麦草ヒュテで2L200円の地下水を分けて貰い、カミさんはアイスクリームでクールダウンする。

麦草峠から40分程の白駒池湖畔には新築の水洗トイレが整備されていて快適だ。夕方にはゲリラ豪雨に見舞われるが、耐雨性能の高いステラリッジIIテントは浸水もなくナイスな活躍をしてくれる。夜は一転して溢れんばかりの星空となる。

サイト地着…15時27分

実働時間…7時間04分

2015年8月6日(木)

起床…3時00分、出発…5時19分

行程…白駒池→高見石小屋→中山→中山峠→東天狗岳→根石岳→箕冠山→オーレン小屋

高見石小屋展望台からの眺望は噂通りの絶景だ。眼下の森の中にはぽっかり浮かぶ白駒池、遠くには蓼科・茶臼・北横・縞枯・黒班・浅間・茂来・四方原・御座・入笠・南アの峰々が望める。

出発から3時間程した中山の登りで、珍し

くカミさんの足が止まる。朝から熱中症でもないだろうからシャリバテか。団扇で風を送りながら、ジブロックに小分けにした甘系の行動食を補給すると、徐々に回復の兆しが見えてきた。ハードな行程でグリコーゲンが不足したのだろう。休憩毎に糖質補給をすることで山行中のガス欠はなくなった。

中山峠から東天狗岳への登りはガレ場の陰しい岩登りとなり、結構なアルバイトを強いられる。肩で息をしながら、カメのように歩を進めるとようやく山頂に出る。山頂はガスのために展望はなく、西天狗岳のピストンを諦めて先を急ぐとする。この先の稜線上には幕営地がないため、箕冠山(みかぶりやま)から稜線を外れてオーレン小屋まで300m下る。なだらかな下りは足場も良く心地いい。14時には着いてゆつくりしよう。

小屋の前には豊富な沢が流れていて、テールベンチは登山者で賑わっている。水場には冷たい水がジャバジャバで、トイレもピカピカで最高のロケーションだ。広い幕営地はガラガラで、運よくスノコの上にテントを張ることができたので、濡れたテントを乾かすには好都合だ。カミさんがオーレン小屋で一風呂浴びている間に、テールベンチで一杯やっている所得も言われぬ開放感に見舞われる。外気温は24・3℃で、サンダル履きが心地いい。夕飯の支度をしながら、明日からの長い行程を予習して、起床出発時間を1半3半に繰り上げるとする。

サイト地着…13時58分
 実働時間…6時間19分

2015年8月7日(金)

起床…1時30分、出発…3時33分

行程…オーレン小屋→夏沢峠→硫黄岳→横

岳→赤岳→キレット小屋

肌寒い中、ヘッドライトの明かりを頼りに夏沢峠を経由して硫黄岳に向かう。中腹から振り返ると、日の出と共に眼下に薄っすらとオーレン小屋と夏沢峠が姿を現してくる。ケルンに導かれながら更に高度を上げていく。山頂の手前にはコマクサの大群落が広がり、けなげに咲く姿は女王としての気品を感じさせる。硫黄岳山頂からは、これから歩を進めて行く稜線が赤岳の先まで見渡せる。手前の横岳には、南北に連なるスリリングな岩峰群を何度も縫うように縦走路が付いていて、鎖場やハシゴのあるアップダウン、トラバースを繰り返して行くのでかつたるい。

赤岳展望荘で一息ついて、赤岳までの標高差180m程のザレた急登を一気に登る。ハケ岳最高峰の赤岳(2899m)山頂は風雨ガス共に激しく、天気回復を待つ人たちを横目に先を急ぐとする。

キレット小屋までの下りはろくな足場や鎖が無く、急なルンゼのガレ場が続く難コースだ。登ってくる登山者は結構いるが、下っているのは我々のほかには一組だけのようだ。登りは比較的楽なようだが、下りは標高差460mを3時間かかるような難所だ。

赤岳から権現岳の間は人が多くないこともあってか、中間にあるキレット小屋周辺のコマクサの株はとても大きい。他のハケ岳主脈の縦走路に比べて標高差が大きい分だけ植生も多種多様のようなだ。

キレット小屋はその名の通り、赤岳と権現岳の稜線間のV字に深く切れ込んだ最低鞍部(標高2440m)にあり、幕营地は斜面が多くて狭い。今夏の水場は枯れているので雨水を煮沸してペットボトルで提供してくれた。

サイト地着…14時42分

実働時間…7時間26分

2015年8月8日(土)

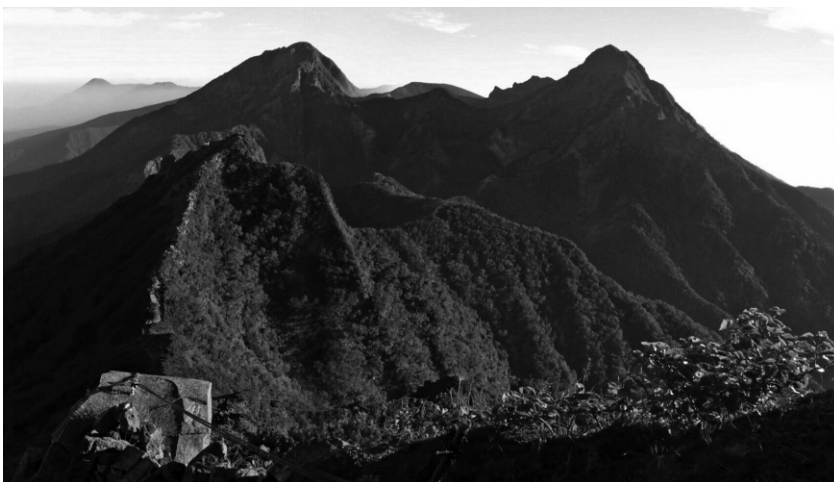
起床…1時30分、出発…3時30分

行程…キレット小屋→権現岳→青年小屋→

編笠山→観音平

真つ暗な岩稜帯をヘッドライトの明かりを頼りに歩き出す。早速ヘビーな鎖場が現れる。そもそも明け方の岩稜帯は怖くて歩きたくないのだが仕方がない。権現岳方面を見上げると光の集合体が結構なスピードで近づいて来る。あつという間に権現岳を下って目の前に現れたのは、トレイルランニングの若者達だ。0時に小淵沢駅を出発して赤岳で御来光を拝むそうで、歩けば10時間の行程をここまで4時間で来たのだから、つ、強ええ。

強い西風を受けながら、権現岳の手前で赤岳方面を振り返ると、稜線のシルエットに並んで御来光が雲海に浮かび上がってくる。4時55分だ。絶景を愛でながらしばしの時間を



権現岳から赤岳方面を望む

満喫する。この先の権現岳直下には長くて高いハシゴが掛かっている。61段だ。「上っている間にハシゴが外れて後ろに倒れたら」なんて考えるとぞつとする。権現岳側から望む赤岳は、普段見慣れない鋭利な姿をしていて、キレット小屋を挟んで権現岳との領域を分か

つかのようだ。左に阿弥陀岳、その間に歩いてきた横岳・硫黄岳の稜線が連なり、更に奥には縞枯山、北横岳、蓼科山の峰々を望むことができる。

長く緊張した下りもやっと終わり青年小屋で休憩だ。木陰のベンチには沢山の蝶々が寄ってきて疲れを癒してくれる。ゴールの観音平に着く目途もついたので、40分の大休憩を取ってから編笠山に向かう。編笠山は遠くから見ると丸みを帯びたなだらかな山容をしているが、実際の登りは岩塊がゴロゴロしていて、そのうえをペンキに従って登って行く。広い山頂は岩がゴロゴロした森林限界のハイマツ帯で、土曜日だけあって賑わっている。

最後のピークに別れを告げ、標高差1000mを観音平まで下る。森林限界からシャクナゲ群生地を過ぎ、高度をぐんぐん下げていくと押手川だ。辺りは苔の森で、ヒンヤリして心地いい。左に分岐する道は編笠山をトラバースして青年小屋へと続いている。

五日も歩いていると、流石に足もくたびれて来た。カミさんの膝痛は毎晩のアイシングが功を奏してここまで抑えて来られたが、2時間の下りが応えたようだ。もはや我が家の必須アイテムのエアースロンパスを振り掛けて急場をしのぐ。私は足裏のアーチが伸び切った感じの足底腱膜炎っぽい。靴ひもを解いて足を休ませたい所だが、結び直すのが面倒くさいので、このまま歩を進めるとする。あと二本だ。

ここから傾斜も少し緩やかになり、山腹のコメツガなどの針葉樹林帯をいくと雲海展望台だ。更にミズナラやシラカバの中を下っていくと、やがて広く緩やかな笹原が現れる。ゴールの観音平はすぐそこだ。

観音平着…14時33分

実働時間…8時間58分

2016年情断会スノーワンデリング 雪上鍋パーティーと神秘の湖を巡る旅

BN 788 原田 博文

「来年のスノーシューはどこ行く?」

「今年の四阿山よかったよな」

「原田来年も頼むよ」

以上「八羽」で飲みながらの決定事項。

四阿山が好評だっただけに次の企画はハドルが高いよなと思いつつPCに向かう。スノーシューについてネットで調べると初心者向けのツアーはたくさん見つかるけど、ある程度登山歴のあるオジサン達が喜びそうなコースってなかなかないんだよね。で、思いついたのが以前紅葉ドライブに行ったことのある奥日光。まずは宿を確保ということで日光アストリアホテルを予約。コースは初日に戦場ヶ原で「鍋パーティー」。二日目は金精道路から刈込湖・切込湖を経て光徳温泉に戻るかなりオーソドックスなコースに決定。

三月五日(土)

今回のメンバーも小田野、高島、宮澤、小川そして原田の五人。今回は都合により原田の車が桶川から、小田野の新車が東川口から出発し、東北自動車道の大谷PAで待ち合わせることにした。原田は早々と大谷PAに到着しドトールでのんびりとモーニングコーヒーとなったが、小田野組は誰とは言われないが集合場所を間違えたのがいて、若干遅れて到着。トイレ休憩もそこそこ東北自動車道日光宇都宮道路を経由しているのは坂へ。いろは坂も路面はカラカラ、何の不安もなくビンビン飛ばす中年暴走族。

中禅寺湖まで上っても道路の脇にはほとんど雪がない。企画者としては???どうしよう。不安になる。実は前日ホテルに電話して雪の状態を確認したところ「ホテルの周りの積雪は三〇センチ位です。でも十分楽しめます」だと。「天気予報では日曜日、平地は雨みたいですけど、その辺はどうでしょうかね?」「この辺も雨だと思いますよ」「あっそう」。

東川口でのロスタイムは帳消しにして予定時刻ピッタリにホテルに到着。駐車場で身支度をしていざ出発。ザックにスノーシューをくくり付けて国道までのロードをひたすら歩く。原田は「鍋パーティー」用のコンロ、コッヘル、食材(こ丁寧に保冷剤まで入れっぱなし)一式、そしてビールを背負ってかなりつらいロードであった。

国道を越えて遊歩道の木道に入ると背後に男体山、女峰山、太郎山等がくっきりと見え



た。天気予報まで変えてしまうのはやっぱり情断会だよな。小田野はこの辺は釣りに来るので詳しくらしく、木道を少し外れたところに「鍋パーティー」適地を見つけ、この為だけに持ってきたスコップでテーブルを作る。原田はトマト鍋の用意開始。今朝は早起きをして下ごしらえをしてきた（実はカミさんを手伝ってもらったのだが）だけあってあつという間に鍋完成。あまりの美味さにべのり

ゾットまで完食。匂いにつられたのかキツネまで様子を見に来た。

腹もきつくなったところで本来の目的であるスノーシューでの散策に出るが、雪が少なくブッシュだらけで思うように進めない。仕方なく早々にホテルに引き上げて温泉に浸かることにする。このホテルの温泉（光徳温泉）はしっかりと硫黄の臭いのするにぎり湯で、いかにも温泉ですという風呂であった。

三月六日（日）

明けて日曜日、部屋のカーテンの隙間が明るい。今日は雨が降るんじゃないのと思いながら外を覗くと明るい。それも雲の間に青空が見え始めた。言いたくはないがもう神だね。朝食をたらふく食べていざ出発。原田の車で金精道路の冬季通行止めのところまで行つて登山開始。今回車2台で行ったのは光徳に下山したら小田野の車で原田の車を回収に行くという作戦でした。

雪は少なめしっかり固まっているのでスノーシュー、軽アイゼン好みの装備で登山開始。しばらく道路を歩き、登山口へ。青リボンに導かれながら先ずは蓼ノ湖へ。トレースもしっかりとあり道はわかりやすい。本当はスノーシューでフカフカ雪を蹴散らして歩きたいのだが仕方ないか。樹林帯をしばらく登って小峠に到着。その先も夏道だろうか、トラバース気味に切込湖に向かう。途中から手摺の付いた木製の階段を下って切込湖に到着。ここで昼飯かと思つたが、コースリーダー

はまだだと。お前は朝から三杯飯を食ったからいいかもしれないが俺は腹減つたぞ。

小休止ののち夏道に戻り、刈込湖を下に見ながら、緩やかな上り下りを繰り返して涸沼へ向かう。正面に山王帽子山が見えてきたあたりから南斜面になり、ますます雪が少なくなりササや泥の上を歩くようになる。スノーシューがもつたない。

涸沼の見晴らし台で記念撮影をしたあとは林道への急登を経て山王峠に到着。見晴らし台で男体山を正面にようやく昼食となった。ここから光徳まではタラタラの下り、雪もそこそこでありそうなので全員スノーシューを付けて下山開始。ミズナラやカラマツ林を抜けて、大満足で光徳温泉に戻り着いたとき。めでたしめでたし。

楽しもう女子(?) 人生

BN 1156 中村(長谷) 央

はじめての薫風への寄稿です。充分なおバサンですが緊張します。題材についてしばらく悩みましたが、女子班について書かせていただこうと思います。

3月に送別会に参加させていただき、今年度の主将・主務にお目にかかりました。可愛い女子でした!! MWVの長い歴史を振り返れば女性の先輩がリーダーシップをとられていたころはあるのでしょうか、ワタクシは団塊ジュニア世代。男の部だったMWVの端っこ

で遊んでいた身としては、女子の主将主務には感慨深いものがありました。心から応援しています!!

とはいえ、現役時代の私が端っこでおとなしくしていたわけではなく、本当にたくさん先輩方に可愛がっていただきました。個人的な男子の先輩たちは時にやさしく時に面白く時にごちそうしてくれながら私のモチベーションを4年間…いえいえ現在まで20年間あげつけてくださっています。

一方女子班は…当時のPL勝部先輩を筆頭に非常にタフな先輩方が揃っていらつしやいました。勝部先輩の名言「元氣は出るものじゃなくて出すものよ!」は今でも時々私の前に現れる言葉です。勝部さん、岡野さん、平林さんと続いた「デキる先輩方」の後にワタクシが女子班PLになった時はさぞかし皆さまご不安だったことだろうと思います。PLになった後はOB会で吉間(塩野)さん、井上泰子さんから諸先輩方が、4年時代の私にくださった数々の激励には感謝しかありませんし、自分の根底はやはりあの時に作られたと思います。

しかしながら…ここで女子の先輩後輩の皆さんに意見がございます!仕事、結婚、出産、育児、趣味でお忙しいのはわかります!が、子連れでも良い!OB会にもっと出席しようではありませんか!!私自身3人の子どもに恵まれましたのでまだまだ育児に追われる毎日ではあります。しかし、GWには筑波山に上

の2人と登ってきました。ハイキングくらいではありますが、がんばって登ってくれる子ども達との山行はとても楽しいです。3月の送別会には下二人とお邪魔しましたが、多くのおじいちゃん、おじさん、お兄さんが遊んでくれて私は悠々と会話を楽しませていただきました。(小野崎さん、井上さんはじめ皆さまその節はありがとうございました。)男性と比べ女性は今を楽しめる生き物、きつと今の毎日を皆さんも楽しんでいらつしやつて、懐かしいバカ話なんていらないうととお考えのことと思います。でもあまりにお目にかかれないのはちよつと寂しい!たまには時間を作つて、子連れでも、子連れでなくとも、OB会にもお顔を見せてくださると嬉しいですね。最近井上泰子さんと私は手白に行きたいね!なんて話をしております。加仁湯までなら付き合つてあげてもよくてよいという方いらつしやいませんか??部内結婚をされた皆様は夫君を運転手兼荷揚げ係りとしてスカウトしてみませんか??実現すれば昔と変わらぬ女子班の皆様に会いたい男性の諸先輩方ががちりとフォローしてくださるハズ!

今現役は男女混合パーティーで登り、それも素敵だなと思いますが、女子だけのパーティーでワイワイ登つてつらいことも越えてきた記憶はかけがえのない宝物です。1年の夏合宿で何度も偽ピークに騙されながら登つた利尻富士の素晴らしさは今も忘れません。

あの頃の話をもたみんまでできたら嬉しいです。(時を超えて根性なし!と叱られそうです。)

女子の先輩後輩の皆さまハセは元氣に楽しく家庭に仕事にがんばっております。ぜひ針生か手白か紫紺館かりバティタワーでお目にかかりましょう!(あ、アミはなくなっちゃったんですよ!カロリーとかレモンはまだあります)5年、10年氣長に皆さんとまたおしゃべりができる日を楽しみにお待ちしております。

寄付お礼

BN 751 諏訪本 充弘

2010年より始まった未来サポーター募金にご寄付いただいたOB諸兄には本当にありがとうございます。その都度必ずしもお礼できなかった分も含めて誌上ではあります。が、心より感謝もうしあげます。

OB以外のご寄付いただいた方につきましては、年度末に部長、監督、主将、連名でお礼状は発送しております。

毎月、部長および監督の私にはご寄付いただいた方のお名前はスポーツ振興事務室より一覧表が届きお名前は匿名の方を除き分かるようになっております。

さてこのたび部員の増加に伴い寄付金の中より50万円を取崩しテント及び備品を購入いたしました。早速、春合宿で使用させていただきます。



できました。

現在の班編成は4班で、新調の4張を各パーティに1張ずつ持たせて写真の通り快適なサイトが出来たと思います。

さて、未来サポーター基金ですが、2010年より発足し、奨学金、国際化、研究、キャンプ整備、及びスポーツ資金の5つのカテゴリーに選んで寄付金を募り、寄付金控除の対象となる制度です。校友に送られてくる広報の中に振り込み用紙が入っており、スポーツ基金のところにクラブ名と番号がクラブは43を記入してご寄付いただけたら幸いです。

■部旗を新調しました

昭和47年度卒業黙会から寄贈された部旗は、40数年、MWVの伝統を継承して参りました。しかし、さすがに近年は色落ちで傷みが激しくなってきたことから、80周年記念で頂いた寄付(BN344立木久三OB他2名の会員)を基に、部旗・収納ケースの製作を(株)佐藤万(BN538佐藤寛OB)にお願いしました。

新調なった正絹・紫紺の部旗は、5月29日の平成28年度幹事会・会員総会で初披露されました。



部旗とケース

■第58回たため会ワンデルング「谷川岳」のご案内

なため会企画振興部

昨年、創部80周年事業の一つとして企画した谷川岳でしたが、残念ながら雨のため西黒尾根は断念しました。そこで今年も再び谷川岳に登ることにしました。一方、気軽にその雰囲気味わえる、一の倉沢散策コースも用意しています。

しっかり登りたい方、気軽に散策したい方、どちらも奮って参加ください。

1 実施日 平成28年8月27日(土)

2 地域 谷川岳(トマノ耳1,963m)

3 コース

Aコース…谷川岳山頂(実働6時間30分)

Bコース…一の倉沢散策(実働3時間20分)

4 集合

Aコース…越新幹線上毛高原駅東口08:00—上毛高原

駅08:10(タクシー)—谷川岳バスプラザ駅08:45

Bコース…越新幹線上毛高原駅東口10:10—上毛高原

駅10:15(タクシー)—谷川岳バスプラザ駅10:50

5 登山計画

Aコース…バスプラザ(09:00)—西黒尾根—谷川岳

肩の小屋(13:30)—トマノ耳—谷川岳肩の小屋(14:00)—天神平駅(15:40)—ロープウェイ—バスプラ

ザ駅(16:00)

Bコース…バスプラザ(11:00)—土合橋—一の倉沢

分岐(12:00)—虹芝寮(12:30)—幽ノ沢出合—一の倉

沢出合(13:30)—マチガ沢出合—バスプラザ(14:30)

※東京⇄上毛高原の往復の新幹線は、各自お買い求め

ください。

【行きの列車】

東京06:36(Maxたにがわ40)—上毛高原07:53

東京08:52(Maxたにがわ309)—上毛高原10:06

【帰りの列車…予定】

上毛高原19:53(とき344)—東京21:00

6 会費

Aコース…往復タクシー代+ロープウェイ代+慰労会費

10,000円

Bコース…往復タクシー代+慰労会費

9,000円

その他 雨天決行 昼食持参

申込 平成27年8月14日(金)までに、メール・

電話でお申し込み下さい。

☆メール kikaku@natamekai.org

☆電話 090-8248-3032(丸山)

※メールで申し込みされる方は、「谷川岳ワンデルング

参加A又はB」と、BNと氏名を記載のうえご送信

ください。

※次回の予定

2016年10月22日(土) 斎藤山(1278.3m)

48年ぶりの北海道夏合宿

BN 705 杉山 裕

7月1日から同期9名で懐かしの2年次夏合宿BCの地を訪れた。班別は道北・道東、BCは路の台・朱鞠内湖であった。当時のCL大西・ML俵木両OBは既に物故されている。古藤(BN 699)・酒井(701)・青江(703)・杉山(705)・鈴木(706)・関川(710)・八下田(711)・米山・阿部(711)の班別については台風崩れの低気圧に襲われ、強烈なヤブや罌の気配などそれぞれが厳しく恐ろしかったことと、ほんのわずかな楽しかった思い出を断片的に記憶にとどめていた。しかし両BCはどうやって行ったのか、移動は何で行ったか、フアイヤーは？皆何も覚えていなくて、唯一路の台BCのテントでの爆発で大火傷を負った鈴木・青江両君のことが共通の思い出で、あとは地名だけが記憶に残っているのみ。

初日は出雲・岡山・兵庫・岡崎・栃木等各地から羽田で集合、旭川に飛び、レンタカー2台で名寄のホテルへ。名寄の町は人通りも少なく落ち着いた街である。ところが夜目星を付けた店は軒並み満員。9名は無理と歩き回った末に、ホテル隣のすし屋へ。内陸であり期待はしていなかったがさすが北海道、貝・魚はうまく満足であった。

2日目、20年以上前に廃線になった深名線をたどり第一BCだった路の台へ。駅の痕跡も何もなく傘ほどもある路の茂った平地にこ

の辺をBCにしたのかなと話をしても記憶は戻らず。朱鞠内湖西岸沿いに廃線をたどり朱鞠内湖第二次BCへ向かうとするがゲートがありUターン、途中ピッシリ山への道標が倒れかけていたので直して記念撮影。ピッシリ山は確かBCから向かったはずだが頂上まではいけなかったな……位がせいぜいの記憶。朱鞠内湖東岸を南下し朱鞠内湖キャンプ場へ。今は立派なオートキャンプ場になっていてテントもちあらら。遊覧船があり30分の船旅を楽しむが、ここでの記憶も皆全くなし。近くの雨竜第一ダムの下に光顕寺があり、戦中のダム・鉄道建設に伴う過酷な強制労働による多くの朝鮮人・中国人犠牲者が祀っておりお



参りし冥福を祈る。半世紀前は想像が及ばないことであつた。その後旧深名線沿いに南下、日本一の蕎麦産地幌加内です割蕎麦を楽しむ。ここは道の駅^{チップベック}だったがビール・酒類なし。深川近くの秩父別温泉で汗を流し旭川の宿へ。旭川は大都会であり人が多い。夜はジーンズカンの有名な店へ行くが、雨の中順番待ちである。ラムと食べ放題の野菜・飲み物のシンブルなメニュー、9人で21人前の肉を食べ、何人かは飯を食べ、飯を食べた者は更に旭川ラーメンまで食べた。さすが元ワンゲルである。その後スナックで山の歌や北海道の歌を歌う。

最終日、三浦綾子記念館わきの外国樹種見本林を散歩、アイヌ資料館を見学、旭川空港へ。昼食後帰途へ。

おまけ

3S(酒井・関川・杉山)は空港で本隊を見送って、旭岳温泉へ。翌日大雪山旭岳を目指す。ロープウェイで上り小雨の中、キバナシヤクナゲ盛りのお花畑を登る。気分良かったのはそこまで、約2100m地点金庫岩が見えるあたりから風が強まり、そのうち立っていられなくなりウサイン・ボルト張りのポーズで耐えたり、這いつくばる状態。登頂を断念し、登ってくる登山者にこれ以上は無理と声をかけながら下山。下界に降りると穏やかな青空、あの強風誰も信じてくれないでしょうね。悔しいから旭山動物園を見物、空港でやけ酒をあおり最終便で羽田へ。

明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 創部80周年記念祝賀会

■日 時 平成27年12月19日(土) ■場 所 明治大学紫紺館

■式次第 (敬称略)

司 会		主 務	永田 真帆
黙 祷			
開 会 挨拶		部 長	長峰 章
	なため会	会 長	鈴木 正彦
御来賓祝辞	明治大学	理 事 長	日高 憲三 様
	明治大学	学 長	福宮 賢一 様
	明治大学 駿台体育会	会 長	関根 宏一 様
御来賓紹介			
乾 杯	なため会	相 談 役	天野 俣明
御 歓 談			
部員紹介			
80年のあゆみ		3年部員	松井 遥奈 城島 紀夫 様
御来賓祝辞	「ワンダーフォーゲル活動のあゆみ」 著者		
マンドリン演奏	明治大学マンドリンOB倶楽部		
部 歌 斉 唱	なため		
校 歌 斉 唱	明治大学 応援団	団 長	渡邊 海翔 様
閉 会 挨拶	創部80周年記念事業	実行委員長	住田 孔一

■出席者 (敬称略)

明 治 大 学 理 事 長 日高 憲三 明 治 大 学 学 長 福宮 賢一
日本山学会 会 員 城島 紀夫

明治大学駿台体育会 (35名)

駿台体育会 会 長	関根 宏一	端 艇 部 監督・理 事	角 久仁夫	端 艇 部 理 事	齋藤 和行
相 撲 理 事	小川 清彦	弓 道 部 監督・理 事	浅野 一郎	硬式野球部 理 事	関谷 俊郎
硬式野球部 監 督	善波 達也	馬 術 部 会 長	森 敏郎	射 撃 部	田村 仁一
ホッケー部 監督・理 事	宮田 知	山 岳 部 会 長	節田 重節	山 岳 部	谷山 宏典
ボクシング部 監督・理 事	星野 隆	ス キ ー 部 理 事	豊原 俊哉	自 動 車 部 監 督	宮鍋 正幸
卓 球 部 理 事	松井 右近	レスリング部 理 事	田部井 茂	レスリング部 監 督	中出 幹児
体 操 部 理 事	吉川 修	体 操 部 渉外担当	石貫 伸二	空 手 部 理 事	市川 義和
フェンシング部 監督・理 事	長尾 康司	フェンシング部 理 事	鈴木 和行	フェンシング部 代表幹事	片山 元
ヨ ッ ト 部 監 督	吉田 優	ソフトテニス部 理 事	重田 衛	ゴ ル フ 部 理 事	塚谷 昌哉
ゴ ル フ 部 理 事	眞野 大	拳 法 部 理 事	小山 幸夫	拳 法 部 幹事長	池田 勇人
合 気 道 部 理 事	竹越 利之	合 気 道 部 助監督	尾島育四郎	ローバースカウト部 監督・理 事	平良 仁志
ローバースカウト部 理 事	稲垣 秀明	応 援 団 筆頭コーチ	吉田耕太郎		

明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 (29名)

部 長	1000 長峰 章	監 督	751 諏訪本充弘	コーチ	1064 井上 堅一
前主将	前川 晃慶	前主務	野村 啓悟	前 P L	望月健太郎
主 務	永田 真帆	4 年	池田 将太	4 年	今井 悠貴
4 年	由水 雅也	4 年	佐藤 光時	4 年	神内 亜実
3 年	荒木 清香	3 年	伊藤 嘉音	3 年	落合 祐太
3 年	二宮竣之輔	3 年	野神 宏太	3 年	二見 遼
3 年	水本 ケン	3 年	宮入 浩	3 年	村上 彪馬
3 年	山下 寛生	3 年	山本 新大		
				主 将	松田彩友美
				4 年	近藤 諒生
				4 年	高橋辰之介
				3 年	茅野 真
				3 年	松井 遥奈
				3 年	森下 立基

明治大学体育会ワンダーフォーゲル部なため会 (91名)

157 中村 輝雄	181 新村 貞男	186 田中與一郎	197 小林 碧	228 島林 順三	237 和田 有弘
299 大内 善一	301 小宮 盛治	313 西村 幸一	334 立木 久三	夫人 立木 侑代	345 吉田 修
351 渡邊 厚介	365 徳永 哲也	392 内田 吉成	393 植木 正子	394 中島 禎	395 中山 光史
396 杉山 光司	398 小林 伸行	399 織田 謙洋	447 吉江千鶴子	450 鈴木 要介	451 山田 祥二
455 飯村 朋罔	477 天野 俣明	487 鈴木 康弘	489 野村 司	494 木島 敏夫	495 深田 裕弘
501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	532 鈴木 正彦	538 佐藤 寛	539 小島 政男	549 三嶋 保郎
558 奥倉 勇一	567 石井 信明	575 野田 昌宏	583 橋本 勝	594 秋元 道別	597 大洞 聰
601 池上 勝彦	610 石田 正	614 石井 克太	615 川井 武子	625 菅野 隆夫	661 大賀 徹雄
683 横手 一男	705 杉山 裕	717 住田 孔一	719 鈴木 幸代	722 佐藤 隆夫	725 福本 利直
728 横尾 廣志	730 星野 久満	731 山崎 正信	749 並木 勝弥	751 諏訪本充弘	753 小松 宏之
763 粕谷 勝子	764 高橋 寿子	775 小田野義之	776 高島 昇	778 宮澤 邦雄	785 小川 公平
787 中野 隆之	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	795 濱田 稔	835 猪狩 稔	838 龍 君江
840 黒須 直樹	845 加藤 章一	854 井村 晃之	867 坂田 岳洋	879 井上 稔也	897 山下 仁志
898 小林 香織	1005 原 宏	1006 安部 好洋	1012 塚越 剛	1017 山口 直樹	1018 鈴木 裕文
1022 高取 克好	1064 井上 堅一	1115 上原 誠	1120 天野 敬之	1226 杉山 文啓	1267 山脇 英明
2120 鈴木 元典					



駿台体育会会長 関根宏一氏



明治大学学長 福宮賢一氏



明治大学理事長 日高憲三氏

**明治大学体育会ワンダーフォーゲル部
創部80周年記念祝賀会**


御来賓の祝辞を述べる城島紀夫氏



部歌「なため」を演奏するマンドリンクラブOBと作者の小林碧先輩



参加者全員

平成27年度 卒業生 歓送迎会

■日 時 平成28年2月27日(土) 12時30分～15時00分

■場 所 明治大学紫紺館

■式次第 (敬称略)

12:30 開 会

部長先生挨拶

なため会会長挨拶

監督挨拶

送 辞

答 辞

バックル授与

13:00 乾 杯

歓 談

13:30 記念品贈呈

スライドショー

マンドリン演奏

なため斉唱

校歌斉唱

写真撮影

15:00 お開き



バックル授与

■出席者：89名

●卒業生：7名

1296 前川 晃慶 1297 野村 啓悟 1298 宇津木俊亮 1299 白井 真彦 1301 本行 優生 1302 望月健太郎
1303 土井 崇弘

●なため会会員：44名

157 中村 輝雄	334 立木 久三	夫人 立木 侑代	345 吉田 修	455 飯村 朋圀	477 天野 俣明
489 野村 司	495 深田 裕弘	505 椎橋 稔	527 池田 陽一	532 鈴木 正彦	597 大洞 聰
610 石田 正	615 川井 武子	661 大賀 徹雄	705 杉山 裕	717 住田 孔一	728 横尾 廣志
751 諏訪本充弘	764 高橋 寿子	775 小田野義之	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	795 濱田 稔
835 猪狩 稔	859 丸山 貞二	871 平田 正博	879 井上 稔也	888 関口 健二	897 山下 仁志
1000 長峰 章	1059 井上 泰子	1060 小野崎泰寛	1064 井上 堅一	1115 上原 誠	1156 中村 央
1226 杉山 文啓	1267 山脇 英明	1264 安田 光輝	1282 諏訪部貴亮	1285 荒澤 裕司	1293 勝田 三月
1295 山崎 友也	2120 鈴木 元典				

●現役：38名

主将 松田彩友美	主務 永田 真帆	4年 今井 悠貴	4年 近藤 諒生	4年 佐藤 光時	4年 神内 亜実
4年 高橋辰之介	4年 由水 雅也	3年 荒木 清香	3年 乾 真規	3年 落合 祐太	3年 茅野 真
3年 塚本 惇	3年 二宮竣之輔	3年 野神 宏太	3年 福士 嶺	3年 松井 遥奈	3年 水本 ケン
3年 村上 彪馬	3年 森下 立基	3年 山本 新大	3年 朝倉 慶	2年 今井 幹登	2年 大室 克磨
2年 奥山 昂	2年 栗原 健	2年 下田 玲奈	2年 平 将秀	2年 武内 真	2年 沼田 直也
2年 乗木 大朗	2年 林 薫平	2年 福澤 光浩	2年 藤原裕希恵	2年 毛利 亮	2年 守屋 雄貴
2年 吉田 理人	2年 渡部 遥菜				



■二〇一六年度奥鬼怒山荘OBワーク報告

参加者

・六月三日～五日（二泊）

OB八名（505椎橋、661大賀、705杉山、751諏訪本、764高橋、775小田野、1181松川、2121鈴木）

現役一名（四年松田）

・六月四日～五日（二泊）

OB三名（846植木、1282諏訪部、1296前川）

現役二名（三年落合、村上）

作業内容

・水源改修

3日14時頃から作業開始。水源取水口が破壊され、旧噴泉塔への道跡と水源間のジョイントと、水源から最初のジョイントの2ヶ所が劣化していた。水源の喪失したネットを付け直して水源を復元し、劣化の進んだジョイントは持参した予備ジョイントと交換した。また、管内の土砂の取り除きと清掃を行った。

予備ジョイントの補充が必要。水源付近の崩落が進んでおり、より堅固な保護措置が急がれる。17時頃終了。

・薪作り、運搬

4日朝から小屋北側のブナの倒木をチェーンソーで切り小屋まで運搬して薪割り。午後は小屋北側の直径40cm程の楓の危険木を伐採。ロープを2ヶ所にかけて引きながらチェーンソーを入れ小屋と反対側に倒そうと試みたが、思惑通りに進まず小屋に平行して水場方向に倒れた。幸い人間、小屋共に無事であった。

薪小屋、小屋内とも薪は満タンになった。17時頃終了。

・その他

手白沢温泉～新助沢冠新道は山道らしい姿になりつつある。新助沢からの約50mの急登は杭打や階段設置等の更なる手当てが必要。

小屋のベランダ南側柱はシロアリによる腐蝕が進んでいるので、応急処置として防腐剤塗布を行う。ベランダの使用は危険である。

平成28年度 幹事会・会員総会

■日 時 平成28年5月29日（日）13時30分～16時00分

■場 所 大会会館3F 第1、2会議室

■式次第（敬称略）

13:30 幹事会 幹事長挨拶

一、審議事項

- | | |
|---------------------|----------|
| （一）平成二十七年度事業報告 | 横尾前幹事長報告 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| （二）平成二十七年度決算報告 | 柳川財務部長報告 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| （三）平成二十七年度監査報告 | 池田監事報告 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| （四）平成二十八年度なため会規約改定案 | 横尾前幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| （五）平成二十八年度組織案 | 横尾前幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| （六）平成二十八年度事業計画案 | 猪狩幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |
| （七）平成二十八年度予算案 | 猪狩幹事長説明 |
| ・原案通り承認されました。 | |

二、報告事項

- | | |
|------------|---------|
| ・現役の活動状況報告 | 諏訪本監督報告 |
|------------|---------|

14:00 総 会	会長挨拶	部歌斉唱
	幹事会報告	校歌斉唱
	乾 杯	写真撮影
	歓 談	16:00 お開き

■出席者（会員：33名 現役：5名）

157 中村 輝雄	181 新村 貞男	228 島林 順三	299 大内 善一	344 立木 久三	夫人 立木 侑代
393 植木 正子	395 中村 光史	487 鈴木 康弘	501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	527 池田 陽一
532 鈴木 正彦	538 佐藤 寛	594 秋元 道別	661 大賀 徹雄	705 杉山 裕	728 横尾 廣志
751 諏訪本充弘	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	795 濱田 稔	835 猪狩 稔	838 龍 君江
859 丸山 貞二	861 青木 秀尚	871 平田 正博	897 山下 仁志	1006 安部 好洋	1064 井上 堅一
1106 前田 裕司	1115 上原 誠	1296 前川 晃慶	主将 松田彩友美	主務 永田 真帆	4 年 池田 将太
4 年 由水 雅也	4 年 井上 悠貴				

なため会 組織 (平成28年4月～平成29年3月)

会 員 総 会

幹 事 会

■顧問	杉浦 忠夫(600)	坂本 清(700)	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)
■部長	長峰 章(1000)			
■相談役	新村 貞男(181)	小林 碧(197)	島林 順三(228)	篠崎 徳量(241)
	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	足立 康弘(339)	吉田 修(345)
	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	鹿嶋信太郎(468)	天野 俣明(477)

運 営 委 員 会

■役 員	会 長	鈴木 正彦(532)		
	副会長	奥倉 勇一(558)	大賀 徹雄(661)	
	幹事長	猪狩 稔(835)		
	副幹事長	平田 正博(871)		
	監 事	池田 陽一(527)	横尾 廣志(728)	
	駿台体育会理事	奥倉 勇一(558)	諏訪本充弘(751)	
	参 与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)
	監 督	諏訪本充弘(751)		
	コーチ	井上 堅一(1064)	杉山 文啓(1226)	浜口小百合(1273)
		諏訪部貴亮(1282)	前川 晃慶(1296)	
■部 会	総務部	(部長)小田野義之(775)	(副)原田 博文(788)	(副)平田 正博(871)
		龍 君江(838)	日暮 浩美(915)	松井 法一(974)
	財務部	(部長)柳川 俊泰(792)	(副)上原 誠(1115)	
	広報推進部	(部長)井上 稔也(879)	(副)住田 孔一(717)	(副)加藤 章一(845)
		鈴木 康弘(487)	一色 雅男(570)	池上 勝彦(601)
		石井 克太(614)	猪狩 稔(835)	日暮 浩美(915)
	企画振興部	(部長)濱田 稔(795)	(副)丸山 貞二(859)	奥倉 勇一(558)
		大賀 徹雄(661)	龍 君江(838)	平田 正博(871)
		井上 堅一(1064)		
	山小屋管理部	(部長)杉山 裕(705)	(副)小田野義之(775)	(副)植木 進(846)
		唐川 拓三(850)	山口 直樹(1017)	
	事業運営部	(部長)山下 仁志(897)	(副)安部 好洋(1006)	
■運営委員	中山 光史(395)	飯村 朋圀(455)	前田 芳弘(501)	松本 栄作(566)
	秋元 道別(594)	和田 満(627)	野島 一雄(676)	和賀井英雄(817)
	龍 君江(838)	遠山 高広(858)	日暮 浩美(915)	松井 法一(974)
	池本 直人(956)	成田 幸治(976)	大村 研(1086)	中村 央(1156)

上記以外の幹事

※組織の改編について ①ブロック世話人の呼称を廃止する
②運営委員を新設し、旧ブロック世話人を運営委員に選任する

平成27年度 なため会決算報告
(自27.4.1 至28.3.31) 財 務 部

1. 会計報告

●一般会計		
収入の部		
前年度繰越金	予 算 額	決 算 額
	6,821,450	6,821,450
なため会費	1,650,000	1,551,000
利息収入	10,000	4,934
諸収入	80,000	60,900
合 計	8,552,450	8,438,284
支出の部		
【活動費】		
(総務部)		
会議案内通信費	50,000	66,291
薫風運送費	170,000	158,730
慶弔費	50,000	27,270
事務用品費	10,000	1,880
名刺作成費	10,000	4,600
明大スポーツ新聞購入費	10,000	5,108
住所不明調査費	5,000	0
会費納入推進費	65,000	0
(財務部)		
会費集金手数料	50,000	43,430
(広報推進部)		
薫風制作費	190,000	177,512
薫風制作通信費	10,000	0
ホームページ維持管理費	10,000	10,442
プロバイダー更新費	0	0
ホームページ改定費	50,000	0
(企画振興部)		
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	0
(山小屋管理部)		
奥鬼怒山荘ワーク参加者補助費	40,000	38,727
(事業運営部)		
会場使用料	52,500	51,732
印刷代	5,000	0
親睦旅行会マネージ交通費	0	0
映像機材購入費	0	0
通信費	0	366
【補助費】		
懇親会現役参加補助費	100,000	0
コーチ助成金	150,000	150,432
【渉外費】		
(駿台体育会費)		
駿台体育会活動費	115,000	116,080
駿台体育会カレンダー購入費	108,000	104,728
(歓送迎会運営費)		
御祝金	30,000	30,000
卒業生会費	42,000	49,000
現役会費補助費	0	148,000
会場使用料	52,500	49,032
【その他費用】		
会員名簿製作費	0	0
※MWW創部80周年記念事業費	2,500,000	2,479,770 次頁に詳細
【予備費】		
	100,000	30,000
支出合計	3,995,000	3,736,130
収支差額	4,557,450	4,702,154
会費内訳		
年会費	3,000	3,000
口数	550	517
合計	1,650,000	1,551,000
次年度繰越金		
OB基金	4,557,450	4,702,154
	4,831,000	4,831,000
総 資 産	9,388,450	9,533,154
●なため会総資産		
普通預金	1,660,552	(郵貯)
普通預金	241,602	(三菱東京UFJ銀行)
定額貯金	7,631,000	
現 金	0	
合 計	9,533,154	

上記の通り報告致します。 財務部 柳川俊泰 (792)
上原 誠 (1115)

2. 監査報告

平成27年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監 事 前田芳弘 (501) 池田陽一 (527)

平成27年度事業報告

1 重点目標

- 1 会員サービスの向上
- 2 現役交流の推進
- 3 財政健全化の推進 (会費納入の強化)

2 活動報告

- 1 H27・4・15(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 2 H27・4・22(水) 駿台体育会第1回理事会 (アカデミーコモン)
- 3 H27・4・28(火) 2014年度会計監査 (アミ)
- 4 H27・4・29(水) M V W創部80周年 奥武蔵 物見山W
(奥武蔵 物見山)
- 5 H27・5・12(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 6 H27・5・17(日) 幹事会・総会 (O B会設立60周年)
(リパティタワー23F)
- 7 H27・5・23(土) 第53回なため会W (妙義山)
- 8 H27・6・5(金)～6・7(日)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 9 H27・6・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 10 H27・6・17(水) 駿台体育会総会 (リパティタワー23F)
- 11 H27・6・27(土) 薫風51号・会費納入のお願い発送
(体育記念室)
- 12 H27・7・14(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 13 H27・8・29(土) 第54回なため会W (谷川岳 他)
※オールなため会ワンデルング
- 14 H27・9・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 15 H27・10・13(火) 駿台体育会第2回理事会 (アカデミーコモン)
- 16 H27・10・13(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 17 H27・10・18(日) 第55回創部80周年MWW・なため会
合同記念W (矢倉岳)
- 18 H27・10・26(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会
(久能カントリークラブ)
- 19 H27・11・10(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 20 H27・12・2(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会
(リパティタワー23F)
- 21 H27・12・19(土) 創部80周年記念式典 (紫紺館4F)
- 22 H28・1・12(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 23 H28・1・23(土) 薫風52号・会費納入のご案内発送
(紫紺館4F)
- 24 H28・1・30(土)～31(日)
駿台体育会と体育会監督会との
合同研修会
- 25 H28・2・6(土) 第56回なため会W (三浦半島)
- 26 H28・2・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 27 H28・2・27(土) 平成27年度卒業生歓送迎会
(紫紺館4F)
- 28 H28・3・15(火) 運営委員会 (体育記念室)

※創部80周年記念事業 予算実績

収 入	計 画	決 算 額	
祝賀会費 (会員)	720,000	540,000	
祝賀会費 (学生)	300,000	66,000	準〇B、4・3年
記念式典 (来賓)	100,000	100,000	
記念式典 (体育会他部)	200,000	280,000	
薫風制作費・発送費		180,000	なため会予算下期分を計上
広告収入	0	70,000	
寄付		134,000	
合 計	1,320,000	1,370,000	
支 出			
料理・飲物	1,016,000	1,066,632	料理150 飲み放題153+弁当
会場使用料	72,360	74,790	紫紺館+S2会議室
招待状 (来賓、他部)	10,836	17,520	
案内状 (会員)	40,444	25,983	
名札	5,990	2,156	
徽章 (来賓用リボン)		8,883	
横断幕 (吊り看板)	3,000	10,530	税込 (ステージ上吊り看板: 明大サポート)
式次第		15,440	170部 A3二つ折り
記念写真代			式次第・記念写真・送料・御礼状
藤佐藤万 部旗・収納ケース購入		182,574	記念旗・サンプル送料含む
領収書用角印		2,730	
薫風特集号印刷費	500,000	405,432	三協印刷
薫風特集号・記念Tシャツ発送費		108,995	クロネコDM便+専用封筒+他
缶バッジ 32mm	53,000	52,790	
80周年ワッペン	300,000	0	記念Tシャツと合算
オールなため会W	115,240	187,679	内訳は下段に明記
現役・〇BジョイントW	188,130	0	オールなため会Wに含む (内訳は下段に明記)
記念Tシャツ	1,000,000	1,484,784	ワッペンと合算
印刷版代		9,920	
Tシャツ送料と包材		21,576	Tシャツ発送運賃 (オールなため会Wに使用)
来賓手土産	15,000	81,356	手土産50ヶ+空手部市川氏お返し+スポーツ振興謝礼
マンドリン倶楽部〇B会差謝礼		80,000	6名
応援団謝礼		10,000	1名
予備費	350,000		
合 計	3,670,000	3,849,770	
収入-支出			
収入-支出	△2,350,000	△2,479,770	△分は2015年度なため会予算から補填
オールなため会W内訳			
記念旗	40,000	32,094	8.29登頂記念旗 (600mm×40mm位) 学生5枚、〇B15枚
記念旗版型	8,640	8,172	創部80周年記念旗版型
郵送費	2,500	2,668	旗送付費用
記念品等	75,000	12,108	「オールなため会」ワンデルング入賞品企画参加者への写真代
通信費	6,560	78,305	参加・協力要請の通信費及び参加者への連絡費用
食料費	30,000	30,866	現役・〇B合同ワンデルング (矢倉山)
行動費	15,000	23,466	W行動中の果物・菓子類 (アルコール不可)
合 計	177,700	187,679	

計 報

BN 183 伊東 亮〇Bが平成11年9月6日に
ご逝去されました。
BN 250 沢田靖子〇Gが平成14年8月に
ご逝去されました。
BN 144 阿波寿男〇Bが平成27年に
ご逝去されました。
BN 491 細川紀男〇Bが平成28年1月7日に
ご逝去されました。
BN 355 小川修次郎〇Bが平成28年4月17日
にご逝去されました。
BN 369 近久邦男〇Bが平成28年5月5日に
ご逝去されました。
BN 1128 平川典治〇Bが平成28年6月25日に
ご逝去されました。
BN 237 和田有弘〇Bが平成28年7月15日に
ご逝去されました。
ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

■明治大学体育会カレンダー購入のご案内

明治大学体育会43部と明大スポーツ新聞部、応援団の写真入りカレンダーで、もちろん我がワンドーフォーゲル部も載っています。

ネットで「明大サポート」を検索し、オフィシャルグッズネットショップから申し込むか、または電話でお問い合わせください。

アドレス: <http://meidaigoods.net/SHOP/90195.html>
電話: 03-5639-1853 (平日10~17時)

価格は1,030円(1本)で別途送料がかかりますが、売り上げの一部は「明治大学未来サポーター募金」に寄付されます。

平成28年度 なため会予算
(自28.4.1 至29.3.31) 事業運営部

1. 一般会計

収入の部

前年度繰越金	4,702,154
なため会費	1,650,000
利息収入	5,000
諸収入	75,000
合 計	6,432,154

支出の部

【活動費】

(総務部)

会議案内通信費	50,000	
薫風運送費	160,000	
慶弔費	30,000	
事務用品費	2,000	
名刺作成費	5,000	
明大スポーツ新聞購入費	10,000	薫風同封(5,000円×2)
住所不明調査費	5,000	
会費納入維持推進費	65,000	会費未納者の振り起こしにかかる費用(主に郵送代) 80円×400名×2回

(財務部)

会費集金手数料	50,000	
振り込み手数料	10,000	費用を振り込む際の銀行手数料を計上する

(広報推進部)

薫風制作費	190,000	20ページ(95,000円)×2(6.1月)、@4750円/ページ
薫風制作通信費	10,000	
ホームページ維持管理費	10,000	
プロバイダー更新費	10,000	
ホームページ改定費	50,000	

(企画振興部)

なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	
(山小屋管理部)		
奥鬼怒山ワーク参加者補助費	70,000	年末開放を年末ワークに位置付け30,000円計上

(事業運営部)

会場使用料	80,000	幹事会・会員総会28,080円、忘年会51,300円
印刷代	5,000	
親睦旅行会マネージ交通費	0	
会場利用通信費	1,000	会場利用申請
会員アンケート通信費	30,000	300名×97円(料金受取人払い)

【補助費】

懇親会現役参加補助費	100,000	
コーチ助成金	0	

【渉外費】

(駿台体育会費)		
駿台体育会活動費	115,000	
駿台カレンダー購入費	108,000	1,000円×100部
(歓送迎会費)		
御祝金	0	
卒業生会費	63,000	会費7,000円×9名(紫紺館開催)
現役会費補助費	160,000	会費7,000円(なため会負担4,000円×40名、紫紺館開催)
会場使用料	52,000	リパティタワー開催
吊り看板代	11,000	紫紺館開催

【その他費用】

会員名簿製作費	0	
MWV創部80周年記念事業費	0	
針生山荘竣工30周年記念事業費	300,000	現役交通費補助200,000円
【予備費】	100,000	

支出合計	1,842,000
収支差額	4,590,154

次年度繰越金	4,590,154
OB基金	4,831,000
総 資 産	9,421,154

2. OB基金

廉隅家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会館(紫紺館)建設基金	491,000
	4,831,000

平成28年度事業計画

1. 重点目標

会員サービスの向上
会費納入の強化
運営委員の増員

2. 活動計画

- 4月12日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 4月25日(月) 2015年度会計監査(体育記念室)
- 4月26日(火) 駿台体育会第1回理事会(7ガデミーン)
- 5月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 5月21日(土) 第57回なため会W(陣馬山)
- 5月29日(日) 会員総会・幹事会(大学会館)
- 6月3～6月5日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 6月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 6月15日(水) 駿台体育会総会 兼 オリンピック壮行会(リパティタワー)
- 7月12日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 7月30日(土) 薫風53号発送(体育記念室)
- 8月27日(土) 第58回なため会W(谷川岳)
- 9月13日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月4日(火) 駿台体育会第2回理事会(7ガデミーン)
- 10月11日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月22日(土) 第59回なため会W(針生山荘周辺)
- 10月23日(日) 針生山荘竣工30周年記念式典(針生山荘)
- 10月24日(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会(久能カントリークラブ)
- 11月8日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 12月7日(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会(リパティタワー)
- 12月10日(土) 忘年会・幹事会(リパティタワー)
- 12月29～12月31日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 1月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 1月21日(土) 薫風54号発送(体育記念室)
- 1月28～29日 駿台体育会と体育会監督会との(土・日) 合同研修会(箱根湯本ホテルおかだ)
- 2月4日(土) 第60回なため会W(三ツ峠)
- 2月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 2月25日(土) 平成28年度卒業生歓送迎会(リパティタワー)
- 3月14日(火) 運営委員会(体育記念室)

■現役の活動状況について

・今年度新入生 18名(男子17名、女子1名)

・新人養成合宿 5月20日～22日

- | | |
|----------|--------|
| 1班 大菩薩 | 2班 那須 |
| 3班 金峯・瑞牆 | 4班 奥多摩 |

・今後の予定

- | | |
|------------|--------------|
| 7月1日～3日 | 初夏フリー合宿 |
| 8月9日～14日 | リーダー養成合宿 |
| 8月16日～21日 | 正部員養成合宿 |
| 8月31日～9月8日 | 夏合宿(東北) |
| 9月9日～11日 | 夏合宿BC(十和田湖畔) |

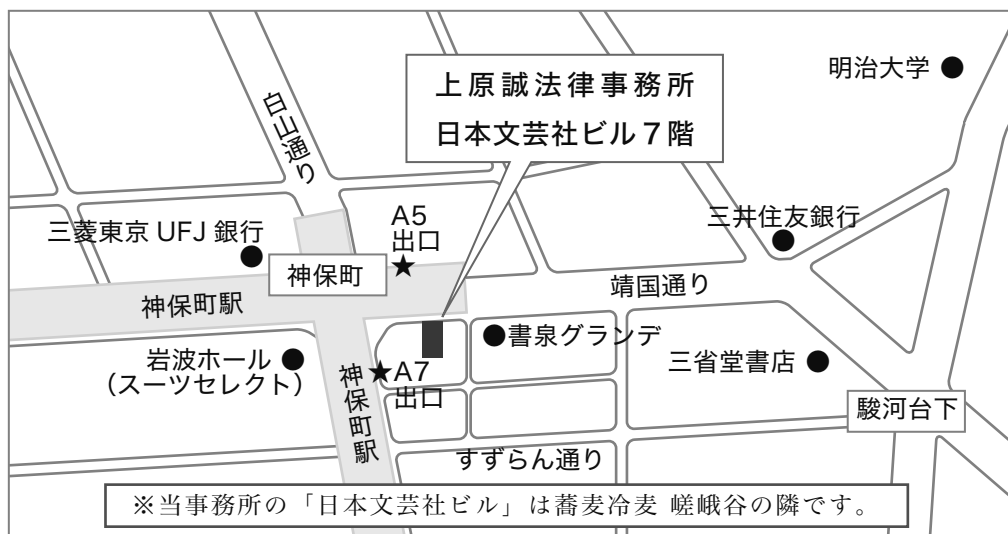
・現在の部員数 62名

- | | |
|--------|--------|
| 1年 18名 | 2年 18名 |
| 3年 18名 | 4年 8名 |

BN 1115 上原 誠

私の仕事は、銀行経験を生かして事業者の経営等に関する法務を柱としていますが、ドラマ等でも話題となります刑事事件の他、相続や家事に関する案件、交通事故といった日常生活に関わる仕事も多数こなしております。また、中央大学の大学院で実務講師を務める他に、母校明治大学でも法制研究所といった資格取得を目指す施設で後進の指導に携わっております。OB諸氏におかれましては、なため会会員にこのような仕事をしている者もいるとのことで、何なりとお気軽に相談なり頂けますと幸いです。また、私の事務所は、MWVの故郷でもある神田神保町にありますので、近くにお越しの際は、気軽に立ち寄って頂きますようお願いしております。

○JR御茶ノ水駅より徒歩7分



暑中御見舞申し上げます。



昭和 39 年度卒業 山久会

■連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、左記の総務部アドレス宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者(平田)までご連絡いただくようお願いいたします。

総務部アドレス: sounmu@natamekai.org

ファックス: 03-5539-4245

平田 正博 (87)

住所: 〒270-0101 流山市東深井 846-158

電話: 090-5811-0189

メール: hirata@mkasas.co.jp

「編集後記」

ちようどこの文章を書いている七月上旬は、九州や中四国地方が大雨による災害を警戒する一方、関東では記録的な渇水への警鐘報道が目に見えて増えている状況です。“程々”をお天気に求めるのは無理にしても、土砂崩れや河川の氾濫が多発する現実を見るにつけ、狭い日本で何とかならんものかと、毎年この季節は詮無い思いに駆られています。

特に今年は大型の台風が頻発する可能性大とのことです。熊本地震の被害報道を見る度に、今回だけは予想が外れることを願わずにいられます。

発行日 平成二十八年七月

編集

鈴木康弘 一色雅男 池上勝彦
石井克太 住田孔一 猪狩 稔
加藤章一 井上稔也 日暮浩美

発行者

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所

三協印刷株式会社